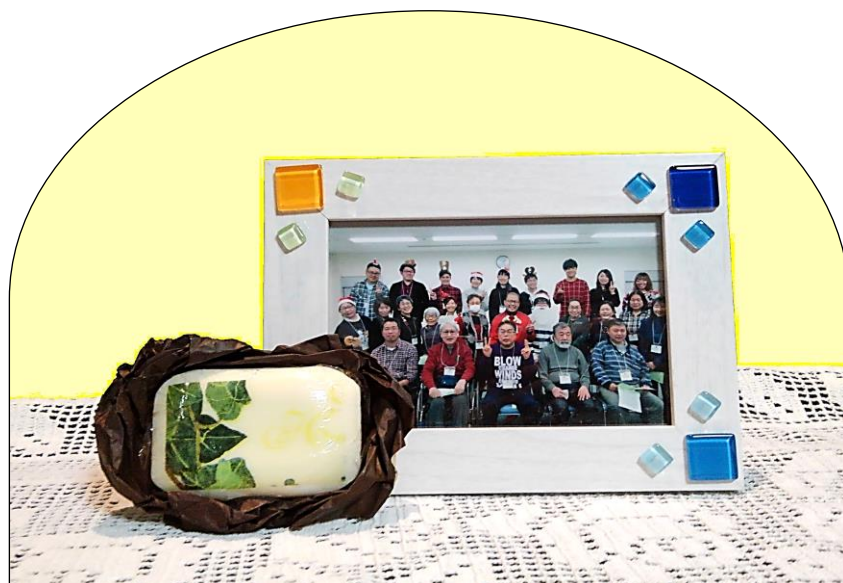


筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2020年 ～～ 夏号 ～～ 第47号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8 滝沢方

TEL 080-5901-9979

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《47号内容一覧》

はじめに（細川副会長）	1
役員会から	2
令和2年度総会報告	3
令和2年度役員紹介	4
県北の広場	5
神栖・県南の広場	6
高次脳機能障害支援センターより	7
会員の声（土屋かおりさん）	10
お知らせ・編集後記	11

表紙の写真は、県北集会でのクラフト作品です。
(写真立て/石鱈のデコパージュ)故 谷津幸光様 作
※写真立ての中には県北の皆さんの写真が入れてある
そうです。



5月の役員会は、私たちも「テレビ会議」に挑戦しました。
小さなトラブルはありましたが、初めての体験にワクワクしながら、楽しく会議をすることが出来ました。

はじめに

副会長 細川 善満

私の息子が二年余り務めていた会社を解雇されたため、3月上旬に国民年金および健康保険の切り替えなどの手助けのために東京に出向いた。東京の様子は通常と変わらず、マスク姿もちらほら、役所もこれといった対応がされていない状態でした。

再度、ハローワークへ求職届および雇用保険受給の申請、さらに障害者年金申請用診断書の作成などのために3月下旬にも、息子の所に出向いた。3月初めの東京感染者数一桁台が下旬には急激に増え始め三桁台に迫る勢いだった。アルコール消毒液の設置、駅近くの人通りも半減、ほとんどの人がマスク着用、さらに公共施設および遊戯施設等は休館と様変わりしてきた。私もじわじわと新型コロナウイルスの恐ろしさと不安が身近に感じられるようになってきた。早く東京を離れたい気持ちになった。

茨城に帰ってすぐに緊急事態宣言が出され、東京へ行くことも息子を帰省させることもできなくなった。こんな事態になるなら息子を茨城に連れて帰ればよかったかなと思った。東京を行き来している人からの感染が広がっているとの報道を聞くと、私たちも感染者ではないか心配になった。体温なんか普段は滅多に測らなかったのに毎日測定し始めた。さらに人との接触も避けた。2週間から3週間たっても症状が出ないし体温も安定しているので安心した。しかし妻は以前に比べると平熱が高めで、しかも体温が上がると体調が悪い、疲れやすいと言っている。未だに感染を気にしている。感染はしていないと思うが何らかの病気にかかっている可能性もあるので新型コロナウイルスが落ち着いたら病院に行かせようと思っている。

息子からメールで雇用保険受給認定日にハローワークに行くが、どうすればいいと聞いてきた。ハローワークHPで新型コロナウイルス対処法を調べてみたら郵送でもよく、PCメールでその方法を送信した。この時期公共交通機関を使うと感染の恐れがあるので、訪問はやめた方がいいとアドバイスした。するとコンビニでの印刷ができないと回答してきた。そこで私の方で申告書をダウンロードし、サインと日付を記入すればいいように準備して、送信用と返信用の封筒と切手を同封して息子に郵送した。すると、今度は提出する雇用保険受給資格者証が見当たらないと問い合わせしてきた。「まいったな！」と思いハローワークに問合せをしたら、初回認定日には提出は必要ないとのこと。渡されていないのだから有るわけがない。その他にも料理レシピのこと、物が無い、油を床にこぼしたなど次から次へと電話およびメールで問い合わせがきた。息子の所に飛んでいけば、すぐに片付くことばかりでイライラする。

最近収束の報道が伝えられ、規制も緩和の方向に向かっているようである。早く外出規制が解かれ、息子の所に行きたいという強い思いがします。それでも幸いなことに、5月10日放送のTBS報道特集で失語症についての特集があり、インタビューを受けた息子の顔を久しぶりに見る事が出来ました。



家族全員が感染せずにいられたことは喜ばしいことです。新型コロナウイルスはしつこくて、感染期間もながく、再発の恐れもある厄介なウイルスである。罹らないことが一番です。友の会の皆様も感染に十分に気を付けましょう。早く皆様と顔合わせしたいものですね。収束でなく終息することを願わずにはられません。

役員会から

令和2年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

項目 月	会 員	役 員 会	そ の 他
6月	12日 家族会交流室 (Webでの交流室)	16日 役員会	15日 会報誌47号発行
7月	10日 家族会交流室 17日 県北家族の集い 19日 第1回当事者会 22日 神栖集会		
8月	14日 家族会交流室 未定 県北集会 26日 神栖集会	18日 役員会	
9月	11日 家族会交流室 18日 県北家族の集い 23日 神栖集会		15日 会報誌48号発行

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、行事の変更もあり得ます。

役員会報告

令和2年3月17日----- 議事 (1) 令和2年度総会について
(2) 各集会の感想
(3) 筑波のかえる46号について
(4) 当事者会活動について
(5) その他

令和2年5月19日----- 議事 (1) 令和2年度総会について
(Web会議)
(2) 今後の事業について
(3) 筑波のかえる47号について
(4) その他

家族会交流室からの報告

令和2年3月13日

令和2年4月10日

令和2年5月 8日

新型コロナ感染拡大の為 中止



令和2年度総会報告

ようやく茨城県も緊急事態宣言が解かれましたが、自粛モードはまだまだ続きそうです。会員の皆様におかれましても、このたびの新型コロナウイルスの流行では、不安で不自由な日々を過ごされたことと存じます。

人は、人との関係性の中で癒されます。朝起きたら「おはよう」と顔を合わせる家族、毎日通う施設や職場の仲間、その気になればいつでも会いに行ける遠方の友人、ご近所との世間話、行きつけのお店のレジでのやりとりでさえも。そんな日常のありがたさに改めて気づかされるとともに、今までの常識が通用しない状況に、戸惑いを感じておりました。

当会も、交流室や集会が次々に中止となり、総会についても書面議決での総会となりました。顔を合わせて話し合いのできる環境が取りづらくなつたいま、改めて人と人との繋がり、家族会の重要性を思います。皆様から届いた書面表決の葉書には近況を伝える言葉や励ましの言葉が添えられており、会を運営する役員にとりましても大きな励みとなりました。役員全員で共有いたしております。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

さて、書面議決とした本年度の高次脳機能障害友の会・いばらき総会は、令和2年5月11日までに書面表決書をご提出いただきました。その結果について下記のとおりご報告いたします。

記

☆ 令和2年度 高次脳機能障害者友の会・いばらき総会議決結果

書面表決返送数 40（正会員数 59）・書面表決返送数 21（賛助会員数 35）

【議案】	第1号議案	令和元年度事業報告について	承認 58 ・ 否認 0
	第2号議案	令和元年度決算報告について	承認 58 ・ 否認 0
	第3号議案	令和2年度活動計画案について	承認 58 ・ 否認 0
	第4号議案	令和2年度予算案について	承認 58 ・ 否認 0
	第5号議案	役員改選について	承認 58 ・ 否認 0

【結果】 すべての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。

【特記事項】 この結果の報告をもちまして、高次脳機能障害者友の会・いばらき本部役員も新体制での活動を開始いたします。今年度は新事業として、高次脳機能障害者支援センターのご協力により当事者会を開催します。交流室・各地区集会等とともに、開催の準備ができましたらご案内致します。今後とも家族会活動へのご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

高次脳機能障害者友の会・いばらき
会長 滝沢静江

令和2年度 役員紹介

会 長	-----	滝沢 静江
副 会 長	-----	石井 安雄
副 会 長	-----	細川 善満
会 計	-----	本田 孝男（新）
広 報	-----	石崎 泰子
県南地区委員	-----	浅野美津子（家族会交流室担当兼任）
神栖地区委員	-----	御所脇美代子
当事者会委員	-----	飛田 利恵（新）
委 員	-----	黒瀬 宰基（ホームページ担当）
委 員	-----	宮内 初江（神栖地区委員補佐）
会 計 監 査	-----	菊地 恵子
会 計 監 査	-----	山崎 勲
顧 問	-----	丹羽真理子



<< 新 役 員 から 一 言 >>

当事者会委員 飛田 利恵

この度、役員になりました飛田です。不慣れで分からない事も多いと思いますが、友の会がより充実した活動が出来るよう、関係者の皆様に助けていただきながら精一杯頑張りたいと思います。仕事の都合でご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

会計 本田孝男

昨年9月から家族会に参加させて頂いている本田です。約3年前に家内がくも膜下出血の後遺症で高次脳機能障害となり、現在は守谷の自宅でリハビリをしております。コロナの影響で下期からですが会計を担当いたしますので今後ともよろしくお願いいたします。

<< お疲れさまでした（退任する役員） >>

副 会 長	-----	小野瀬 須満 様
委 員	-----	笹 原 晃江 様
委 員	-----	村 山 正子 様



県北の広場

みなさん、お元気でいらっしゃいますか。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月、6月の県北集会、5月の家族の集いの開催ができませんでした。早く収束することを願うところです。

安心して開催できるようになりましたらまた、集いましょう！！

レクリエーションを楽しみましょう！おしゃべりしましょう！歌いましょう！

再会を楽しみにしたいと思います。

- ❖今年度の県北集会、県北集会家族の集いは、例年通り計画しています。一部変更がありますので、下記をご覧ください。

県北集会

- 当事者、家族、支援者でレクリエーションや茶話会を楽しみます。
- 偶数月の日曜日に開催
- 場所 主に水戸市福祉ボランティア会館
※日時等詳しくは、『集会のお知らせ』でお知らせします。

県北集会 家族の集い

- 家族のおしゃべり会です。
 - ①日常のこと、社会資源等、情報交換しましょう。
 - ②県のコーディネーターや支援者の参加もあります。
- 奇数月の金曜日 10:00~12:00 に開催
- 場所 水戸市福祉ボランティア会館
※開催日は、会報にてお知らせします。
参加申し込みはいりません。
※今年度から開催曜日が変わりました。

★「パタカラ体操」 してみましよう！

「外出自粛」の要請が出るようになって、テレビでも色々な体操が紹介されていますね。

「口」の体操も大切！！
ぜひ、県北集会で行った口の体操「パタカラ体操」もやってみましよう！

家族みんなでパ・タ・カ・ラ体操♪



使用済み切手の寄付（水戸市社会福祉協議会へ）

2月の集会で使用済み切手を整理しましたが、新型コロナウイルス感染拡大で寄付も控えていました。

少し落ち着きましたので、去る5月18日、寄付をしてきました。寄付も毎年の恒例となりました。

また、集めて寄付していきましょう。



神栖の広場

新型コロナ感染防止対策のため、神栖集会も4、5月は中止でしたが、6月はおしゃべりができる機会を待ちわびていると思いを巡らせています。

当事者、家族の方は一変した毎日をどのように過ごしているのか気になります。医療従事者の方への感謝はもちろんですが、多くの職種の方の労力で生活が成り立っていることを再確認しています。

息子の勤務先は「クリーンセンター」で、時々送迎をします。この機会に大掃除をした家庭も多いようで自粛の早い段階で今までにない粗大ごみの多さに驚き、処理が追いつかない状況を目の当たりにし、コロナがもたらした潤滑のない恐ろしさを感じました。自然災害と新型コロナウィルス、あまりにも便利すぎる奢った生活を見直す警鐘なのかもしれません。

密にならない生活をと、家庭菜園で汗を流し、春の山菜を見つけに出かけ去年と変わらない日々を送れたこと、友人たちの優しさに感謝しています。これからも気を抜かず、うがい、手洗い等、生活の基本を身につけ、知恵を分け合って過ごしましょう。



県南の広場

緊急事態宣言は解除になったものの、皆さんいまだ先の見えない不安の中での毎日をお過ごしのことと思います。

今年度、県南集会として4月5月と2回連続でコラージュ教室を計画しましたが、施設の閉鎖により、両日とも開催できませんでした。楽しみにしておられた方も多く、講師の笹島先生もとても前向きな方で、人数が少なくてもやりたいと仰っていましたが、とても残念なことでした。この事態が収束したら、改めて計画をしましょうと先生からも提案がありました。その時期が来たらまたお知らせしたいと思います。

県南地区では、収束の様子を見ながら、楽しい企画をしたいと考えております。まずは、家族だけのおしゃべりランチ会なども考えています。楽しみにお待ちください。





新型コロナウイルスの影響をうけて

—「にもかかわらず」と「だからこそ」—

茨城県高次脳機能障害支援センター
センター長 小原 昌之

会員の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。この度の新型コロナウイルスによる影響で、私たちの心や体、家族関係、職場や地域の間関係、そして経済的影響にわたるまで、おひとりおひとりが様々にご苦労されてきたこと、お見舞い申し上げます。

これまで、東日本大震災から日本各地での地震、大雨などの自然災害が毎年発生し、茨城でも鬼怒川、那珂川流域の洪水で多くの方が被災されました。ローカルな所で起きた災害には他の場所から応援部隊が駆けつけられません。今回のコロナ禍はローカルではなく、日本や世界全体を巻き込んだパンデミック災害です。感染拡大防止のため、人と人が物理的に分断され、自然災害とは違った事態になってしまいました。目に見えない脅威により、かつてないほど数々の社会的障害を皆が共有することとなったのです。

当センターでは、四月上旬より県の感染症拡大防止の方針にのっとり、二人の職員で電話相談対応をし、他の職員は在宅勤務をしてまいりました。私たちの基本方針の一つであるモバイル型支援は、現場に向かい、当事者や支援者とお会いし、必要な支援の関係をつないでいくことです。この活動が抑制される影響はありましたが、相談電話の件数は例月と変わらず、高次脳機能障害に関して相談を求められる方々は常におられます。

このような状況下で、私たちひとりひとりができることには限りがあり、無力感や徒労感にさいなまれたり、先が見えない不安感に揺さぶられることも多いと思います。「今できることをやっていくしかない」という声もよく聞かれましたし、とても現実的な表現だと感じます。でも、その他に、この場で皆さんに私から何をメッセージできるのか、原稿依頼があってから数日考え、今、二つのメッセージが浮かんできます。それは「にもかかわらず」と「だからこそ」という物事の捉え方と考え方です。「にもかかわらず、やれることをやっていこう」「だからこそ、今までやらなかったことに挑戦してみよう」という発想で、皆さんの活動が新たな展開をされることを願っております。

当センターでは、今年度、相談、技術支援、基礎講座などの研修やその他の会合などを、インターネットが見られる環境なら、どなたでも利用できるオンラインでの実施も検討し準備を進めているところです。スマホやパソコンでインターネットを見ることがなかった会員の方は、ぜひこの機会にトライされてみたらいかがでしょう。オンラインでお会いできる機会もできたら「コロナ禍にもかかわらず」つながって支え合うことができると思うのです。

どうぞ皆さんお元気で、またお会いできる日を楽しみにしております。

高次脳機能障害支援センター 新任職員の紹介

岡野 由美

今年度5月に高次脳機能障害支援センターの職員になりました岡野と申します。私は永らく高齢福祉の仕事に従事しており、その中でも数多く関わってきたのが認知症の方々でした。福祉の仕事に就くきっかけとなったのは祖母が認知症になったことからで、福祉の現場では介護支援専門員として様々な事例と関わり、同時にご家族のご苦労も見て参りました。これから高次脳機能障害の方を支援していく上で、まずは私自身が高次脳機能障害の知見を深めなければなりません。1日でも早く、高次脳機能障害を持つ方々のお役に立てるよう、周囲の方々のご指導を頂きながら課題解決に向け真摯に取り組んで参ります。

これから友の会の方々にお会いする機会があるかと思えます。その際には是非、生のお声をお聞かせいただければ幸いです。

今後もコミュニケーションを大切に、チームで業務に取り組んで参りますので、よろしく願いいたします。

土井 亜季

今年度4月に高次脳機能障害支援センターの職員になりました土井と申します。私は、介護福祉士として高齢者の分野で経験を積み、障害者就労継続支援事業所での勤務を経て、再度、高次脳機能障害支援センターに戻ってまいりました。

それぞれの方の立場・年齢・環境が違う様に支援の形も様々だと思えます。これから少しでも自身で培ってきた経験を生かせるように、高次脳機能障害について日々学びながら様々な方の支援を行っていきたいと考えています。

まだまだ知識・経験ともに不十分な私ですが、少しでもお力になれるよう皆様に関わっていきたいと考えておりますので、宜しく願い致します。

今後ともお会いする機会がありましたら、気軽にお声かけ下さい。

高松麻美子

今年度から寺門さんの後任として支援コーディネーターを務めることになりました高松と申します。職種は心理職です。これまでは児童福祉領域の現場が中心で、主に発達検査等の実施を担当していましたが、新たな領域で日々学ばせていただくことがたくさんあり、刺激をたくさんいただいています。

まだまだ不勉強ではありますが、少しでも皆さんのお力になれるよう、また、安心して生活するお手伝いができるように微力ながら頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



《《 センターからのお知らせ 》》

☆このたび、茨城県高次脳機能障害支援センターの公式 Twitter アカウント (@lba_koujinou) を開設しました。高次脳機能障害支援に関することや研修情報等をつぶやいていく予定です。フォローやRT よろしくお願ひします。

プロフィール画像には友の会にもご協力いただいてセンターで作成した缶バッジのデザインを使わせていただきました。

よろしく
お願ひします☆



お気軽にご相談ください (TEL : 029-887-2605)

《《 たくさんの縁・想い・そして感謝 》》

土浦市 土屋 かおる

既往症を持っている娘にとって、新型コロナウイルスという目に見えない感染症から身を守るべく、母親として神経をとがらせている今日この頃です。毎年、インフルエンザの時期には手指のアルコール消毒とマスクを欠かさずに生活していますが、新型コロナウイルス感染防止のために、更に気を引き締めていかなければなりません。

緊急事態宣言の中では、ステイホームを心掛けて…との事でしたが、私自身、数年前の腸の手術後からずっと、お腹の調子が不安定で、緊急事態宣言の前からステイホームの生活でしたので、5月の連休中、断捨離を始めてみました。「いつか手を付けよう」と思ったこと、何回あったでしょう(笑)

約10年前に引っ越しをした時にクローゼットの奥に眠っていた段ボールたち…。出てきました！！子供達のお宝がいっぱい！！学級通信・連絡網・作文・作品・絵画・写真・部活関係の書類などなど…。まあ、よくもこんなに取っておいたものだと…。子供達は「要らない！」と言うけれど、私が捨てられない…。一つ一つ手に取り、当時は懐かしみ、あっという間に時間が過ぎて、気がつけば足の踏み場がない程の物！物！物！

途中、何度も飽きて疲れての繰り返しでしたが、なんとか片付け終了。と言うより、「この辺で終わり」と、またクローゼットの奥へ…。次回はまた数年後かな…



娘は、34年前に生を受け、誕生と同時に未熟児センターへ入院。幼少期に大病を患い、その後18才で再燃して年子の妹から新しい命を授かりました。(ドナーとして) それ以来、一年間に二回もの誕生日を祝っている娘。セカンドバースデーの7月30日は、一年間禁止されていた生物…ケーキと大好きなお寿司でお祝いです。

その後、療養生活も終わった20歳の時に交通事故に遭い、現在に至ります。

病院とは34年の長いお付き合いになります。数年前に新病院へ移転し、旧病院の小児科があった建物は更地になっています。辛い闘病期を過ごした場所…普通だったら避けて通りたいところでしょうが、私は買い物ついでに何故か足が向いて懐かしくも感じてしまう場所…。小児科で同室だった付き添いのママ達、消灯後、自販機で飲み物を買って暗い廊下で話をしましたね。泣いたり笑ったり…私にとって心休まるひと時でした。

「車、止められた？私は帰るから、入れ替えしちゃうよ」と、いつも声を掛けてくれた方。移植の体験をたくさん話して下さって励ましてくれたおばさま。自分も辛い中、吐き気がする娘の背中をさすってくれていたおばあさま。おやつの大判焼きを食べようと、大きな口を開けた途端、先生が回診に来られて、慌てたこともありましたね。思い出す事が沢山ありすぎて書ききれません。



そして、患者だけでなく、常に家族に寄り添ってくれていたお医者さんと看護師さん達。小児科時代、新人さんだった看護師さん達も長い年月を経て師長・部長として忙しく飛びまわる毎日ですね。いつも私たち家族を気に掛けていただき長いお付き合いをしてくださり、本当にありがとうございます。

先日、悪性リンパ腫で闘病されている笠井信輔さんのブログで「引き算の縁と足し算の縁」というフレーズを見つけました。確かに病気になってしまった事は引き算なのかもしれない。でもそれ以上に得た物が沢山あって、マイナスばかりではないんですよ。今までの娘の闘病生活を顧みてそう感じています。治療さえなかったら、もう少しここに居てもいいかな…？と思うほど精神的に安心できた居心地の良い病棟だったのだと。そして、訪問看護の看護師さん、労災サポートの看護師さん、カウンセリングの臨床心理士の先生、精神科の先生、脚に合う装具を探してくれた先生・PTさん、デイサービスの皆さん、社協の相談支援専門員さん、些細なことにも相談に乗ってくれている弁護士さん、愚痴を聞いてくれる友人たち。皆さんのおかげで、少しずつですが新しい一歩を踏み出せているのだと思います。多方面から支えてくださっている皆様に感謝いたします。

最近の娘は、デイサービスとショートステイ、病院受診と忙しい日々を過ごしています。私のお腹の調子に左右される毎日なので、食事や入浴を待たせてしまう事も多いのですが、わがままも言わず、私の体を労わってくれる娘に脱帽です。

私の手術後は、外食や旅行にも行くことが出来ていませんが、コロナが沈静化して、また穏やかな日常に戻った時には、妹と一緒に映画を見に行ったり、大好きなディズニーランドへ行ったりして楽しい日々を過ごして欲しいと思っています。





《《 当事者会が始まります 》》

- ◆ 昨年度より、支援センターのご指導を受けながら「当事者会」の活動が動き始めました。まだまだ手探りの状態ではありますが、今年度は役員会の中に、当事者会担当の係も作りました。第1回目を7月19日に予定しておりますが、コロナウィルスの感染状況等によっては、変更することもあります。詳しくは、後日お知らせしますのでお待ちください。(HPも)

《《 新聞記事から 》》

長年の間、私たちの会の取材を続けて来てくださった茨城新聞の斉藤明成記者が、今春東京支社に転勤になりました。高次脳機能障害に関心を持ち続け、様々な行事にも積極的に駆けつけてくれました。その斉藤記者のお人柄が分かる記事を見つけましたので、ご紹介します。

取材の必要性を問う声が上がっている。悲嘆に暮れる人を追い回して精神的苦痛を与える報道被害との指摘だ。「話したい人なんていない」「遺族の姿を報じることは望まない」。確かにその通りかもしれない。しかし、違つ側面も紹介したい。私は事件や事故、災害、病気による遺族取材を重ねてきた。ひき逃げで小学5年生の娘を失った夫婦。「ひき逃げ遺族

双眼鏡

R2.5.17 茨城
新型コロナウイルスは著名人の命も奪った。感染防止から亡きがらに対面できないまま、お骨を引き取る家族の姿が報じられ、未知なる脅威を突き付けられた。一方、自宅前で遺族にカメラを向ける報道機関に対してはSNSで批判が相次いだ。
近年、世間の注目を集める事件や事故などが起きるたびに遺

遺族に寄り添う記者に

会」を立ち上げ、厳罰化や未解決事件の家族を支援した。夫婦には別の遺族を紹介してもらったり、常に「遺族に寄り添った記者でいてください」と言葉をもらった。
東日本大震災で人形販売店の店主を亡くした一家。発生後に自宅を訪れたが、息子は「申し訳ないが、今は話せる気分ではない」と話は聞けなかった。震災から1年を前に再訪すると、私を覚えてくれていて「父親が生きた証しを残してほしい」と生前の人柄を記事化した。
輪禍で小学1年生の娘を失った父親とは11年の付き合いになる。私が今春の異動の際には送別会を開いてくれた。「こんな長い付き合いになるなんて」と杯を交わした。なぜ取材に応じたのか尋ねると、「もう誰にも同じ思いをしてほしくない」と返ってきた。

(東京支社・斉藤明成)

※広報誌「筑波のかえる」は、「茨城県福祉団体補助金」により発行しています。